

講義年月日	2002年9月10日(火)
講演者	加藤 好郎氏(慶應義塾大学三田メディアセンター事務長)
テーマ	コンソーシアムとは
講義内容	<p>1. 私が考える21世紀の図書館 アメリカの図書館のコンソーシアムは、1970年代情報ネットワークからスタートし、書誌ユーティリティーが構築された。その後ネットワーク事業はさらに拡大し、「資源共有ネットワーク」と「相互協力ネットワーク」に拡大成長していった。1997年にはコンソーシアムのコンソーシアムとしてICOLCが設立され、134のコンソーシアムが参加している。</p> <p><コンソーシアムの4つの必要条件> 各参加図書館の事業目標設定　コンソーシアムとして独立した組織の構築　しっかりした財源の確保　専門化した図書館員の育成</p> <p>2. アメリカにおけるコンソーシアムの実例 (1)ボストン図書館コンソーシアム(1970年設立) ボストンカレッジ、ボストン公共図書館、ボストン大学、ブランダイズ大学、ブラウン大学、海洋生物研究所、MIT、タフツ大学、ノースイースタン大学等、マサチューセッツ州ボストン地域を中心に16機関で構成されている。 <事業内容> 図書館相互貸借・分担収集・電子媒体の共同構築・逐次刊行物総合目録・研究グループ・図書館員育成のための研修・図書館員の異動と雇用</p> <p>(2)トライアングル・リサーチライブラリー・ネットワーク(1933年設立) ノースカロライナ大学、デューク大学、ノースカロライナ州立大学、ノースカロライナ中央大学で構成されている。 <事業内容> 人的資源の活用、研修、人材活性化のための研修プログラム　印刷物、非印刷物、紙媒体、電子媒体全ての収集・保存アクセス　Web of SCIENCEのライセンス契約　災害から資料を守るためのシンポジウム　システムのデザイン　互恵サービスの充実　バーチャルレファレンスサービスの調査など</p> <p>3. International Coalition of Library Consortia(ICOLC) ICOLCは、コンソーシアムのコンソーシアムとして設立され、2000年現在加盟機関数は世界で150にもおよび。 1998年声明 = 予算問題　知的財産権問題　保存問題　出版者の価格戦略問題　効果測定問題 2001年「声明」改訂における諸提案 = 多様な価格設定と購入モデル・電子ジャーナルの利用の便の向上・長期的アクセス保証とアーカイビング</p> <p>4. SPARC(Scholarly Publishing and Resource Coalition) ARLの高騰する学術雑誌への対策のひとつ ・価格の高騰が目立つSTM(科学、技術、医学)分野の学術雑誌の価格の引き下げ交渉と代替電子ジャーナルの発行支援 ・高額学術雑誌の編集者および投稿者への攻撃 ・学協会出版社に対する電子的手法導入の推奨とプログラム参加図書館による新規雑誌の購入 2001年 SPARCヨーロッパ 2002年 SPARC JAPAN</p> <p>5. 日本の電子ジャーナル関係コンソーシアムの現状 国立大学図書館 平成14年度66大学コンソーシアム 3億9千万円の補助 私立大学等経常費補助 私立大学教育 情報高度化推進特別補助高度情報化推進特別経費 教育研究情報利用経費</p>
用語	・ARL:Association of Research Libraries、米国研究図書館協会
感想	コンソーシアムといってもさまざまな形態のコンソーシアムがある。講義でもいくつかの海外の事例が挙げられていたがいずれも特徴的である。日本は海外の事例を参考にしつつ、日本型のコンソーシアムを構築していく必要があるだろう
配付物	「コンソーシアムとは」
備考	加藤好郎「専門職としての図書館員の育成-コンソーシアムへの展望」『図書館雑誌』、特集「私が考える21世紀の図書館」、Vol.95, No.2, 2001.2, p.102. 三田メディアセンター研修会< http://www.mita.lib.keio.ac.jp/lib_info/act_kenshu/2002_02_27_r3.html >